

しあわせのペンリレー No. 11

～ 新しいこと、新しい学び ～

息子の、「民泊にしてみたら。」の一言をきっかけに、4月から民泊を始めることになった。40年間まったく違う仕事をしていた私たちに、そんなことができるのかと思いながら、またまた息子の「3年間やってみて、だめやったらやめたらええし。」の言葉で「えいっ」と始めることにした。

やりはじめて、もうすぐ1年。たくさん驚くことがあった。

1つめは、多くの外国の方が尾鷲を訪れているということだ。熊野古道が世界遺産に登録されて、はや20年。その熊野古道を歩くため、今でもたくさんの方がはるばると外国から来ているのである。あらためて、熊野古道の価値に気づかされた。

そして、宿泊マナーが良いことも新しい発見だった。よく外国人観光客のマナーについて報道されているが、少なくとも我が家に宿泊してくださる方々の宿泊マナーはすばらしく、自分のなかにあった思い込みを反省する機会となった。

2つめは、ネット社会の便利さである。予約も支払いも全てサイトを通して行われる。いろいろな言語が翻訳され、自分たちのもとに届き、自分たちの返信もその指定された言語に翻訳されて届くのである。多くの人にとっては、当たり前のことかもしれないが、私にとっては、大きな驚きであった。そして、そのシステムの管理をしているのは、尾鷲にはいない息子で、どこにいるかは全く関係なく全てのことが進んでいく。「世界は小さくなった」と言われるが、なるほどと実感した。

終活という言葉が身近になった今でも、何か「えいっ」と始めれば、新しい学びや発見が生まれる。嬉しいことだと思う。

尾鷲市

西 恵美子